

サンウェル株式会社

汚泥の出ないジャリッコ浄化システム

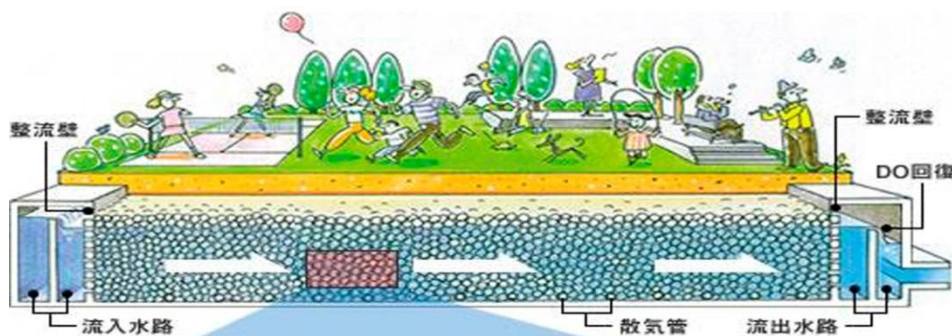
・ジャリッコはすべての有機物を分解し、汚泥が発生しない水処理システムです。

特 徴

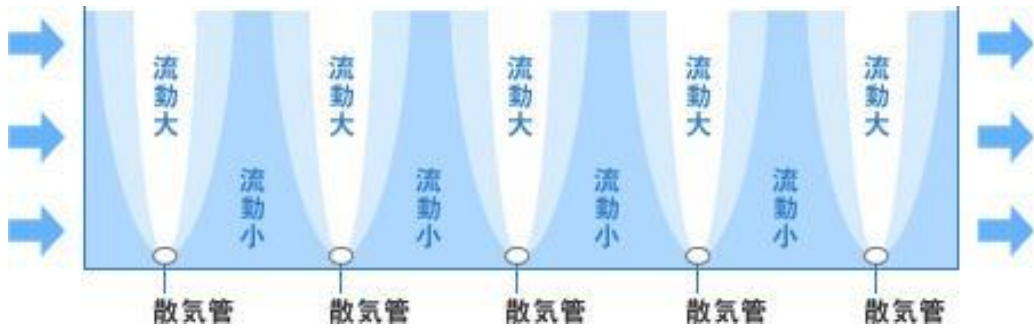
・ジャリッコ浄化システムは河川水や下水、工場排水を浄化するもので、すべての有機物を分解し、汚泥を排出しません。
 ・ジャリッコ浄化システムは建設費が従来の活性汚泥法と比べ、70～90%、汚泥の処理・処分が、不要で、無人運転が可能。したがって、維持管理費は電気代のみで従来の10%で済み、大幅なコスト削減が可能となります。

概 要

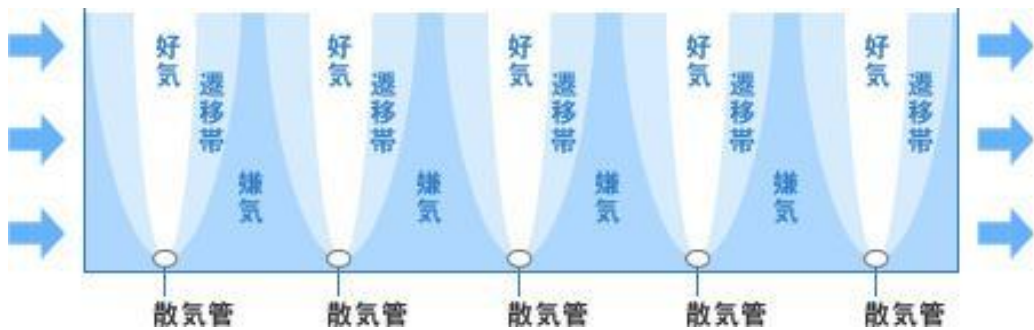
2～3cmの碎石を樹脂で接着した直径10cmの球体を“ジャリッコ”と呼ぶ。
 処理槽に水面ぎりぎりまでジャリッコを詰めて、横方向に水を流す。
 底部に散気管を敷き、空気(酸素)を供給する。
 地下埋設型で上部を公園、駐車場などに利用できる。



汚水中の固形有機物がジャリッコの内部に集積される。ジャリッコ内の固形有機物は嫌気条件下で液状化し、自力で流出し、その空き空間に新たな固形有機物が入る。これを繰り返す。
 汚水中の水(液体)は時間単位で流出し、固形有機物(固体)はジャリッコ内に滞留し、10～30日かけて流出する。



【場の分化】 散気管の直上と散気管の間とは流動の大小に場が分化され、ジャリッコそのものが表面と内部で場が異なる。この結果、多様の環境が作られる。



【好気・嫌気の創出】 流動の大きい場で酸素供給し、流動の小さい場で酸素消費がなされる。その結果、好気・嫌気の条件が生まれる。BOD・SSの減少と同時に硝化、脱窒素も生起する。

開発の経緯と導入実績

衛藤俊司(アクアテック株式会社)は1981年建設省の委託により、河川浄化施設として「礫間接触酸化法」を確立した。その後、より高度化、効率化し、日本、米国、EU、中国、韓国、台湾、カナダに特許を持つ「ジャリッコによる固形有機物分解処理方式」を確立した。

日本国内において、ジャリッコでの河川浄化施設を28か所、工場排水処理施設を10か所作った。



サンウェル株式会社

<http://www.sun-well.co.jp/>

E-mail y-fujii@sun-well.co.jp

所在地: 〒 540-0004

大阪市中央区玉造2-6-7

TEL 06-7896-7851 FAX 06-7896-7858